

JET からの手紙

新しいレガシーに向けて ～スポーツがつなぐ国際交流～

新潟県十日町市文化スポーツ部スポーツ振興課 国際交流員
Sven Bjelan (スヴェン・ビエラン)

転機は突然に

2017年の当初は、クロアチアでのJETプログラムの募集はありませんでしたが、十日町市がクロアチアとのホストタウン事業を進めるにあたり、クロアチア人の採用を希望したことにより、クロアチア人の募集が新設されました。そのことについて、在クロアチア日本国大使館から連絡をいただき、募集があることを知りました。

応募する前は、十日町市とクロアチアの交流について詳しくは知りませんでしたが、交流の経緯について調べていくうちに、非常に関心を抱くようになりました。また、留学時に住んでいた東京と大阪には無かった日本の原風景への興味もあり、実際に暮らしてみたいと思ったこと、また、もっと日本語を学びながら、自分の経験を活かしたいと思ったことから応募を決めました。

東京2020大会に向けて

十日町市での私の業務は、ホストタウンに関するイベントの開催に向けてのクロアチアの自治体やオリンピック委員会および駐日クロアチア大使館等との連絡調整や、



クロアチアオリンピック委員会の視察

チラシやホストタウングッズのデザイン、ならびに、通訳や翻訳などです。

十日町市とクロアチアとの交流は、2002年のワールドカップにてクロアチア代表チームを受け入れたことから始まりました。私は、今日まで築かれた交流を守りながら、その絆をさらに深めることを心掛けて業務に取り組んでいます。

2019年夏には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）のテストイベントに合わせて、クロアチアの柔道・空手・テコンドーの代表選手団を迎え入れました。



クロアチア柔道代表チームによる東京2020大会テストイベントの事前キャンプ

この経験を踏まえ、東京2020大会における事前キャンプの受け入れ体制を整えるべく、準備を進めました。東京2020大会は残念ながら延期となってしまいましたが、自分の国際交流員活動のピークを再設定することで、現在も情熱を絶やさずに取り組むことができます。

また、十日町市とクロアチアのホストタウン事業は、事前キャンプ受け入れだけでなく、スポーツイベント、コンサート、映画上映会、視察受け入れ、応援イベント、交

流会など、多岐にわたる事業を展開しています。これらの事業においても、十日町市とクロアチアの架け橋となるためにさまざまな業務を行っています。



2018年FIFAワールドカップロシア大会決勝戦のクロアチアサッカー代表チーム応援イベント

各事業については、当市ホームページや、十日町市クロアチアホストタウンのフェイスブックページに掲載していますので、是非ご覧ください。



クロアチア大使夫人のクロアチア料理講習会

これからの交流を深めていくために

東京2020大会を1つのチェックポイントとして、十日町市とクロアチアの絆をさらに強くしていきたいです。今までの交流は、クロアチア人が十日町市を訪れる機会が多かったのですが、これからは、十日町市の子どもたちや選手が、クロアチアで行われるスポーツキャンプなどに参加できる方法を考えていきたいと思っています。もちろん、お互いに行き来するような文化・経済交流も考えています。さらに、今まで続けてきた事業やイベントを、より多くの方に参加していただけるようブラッシュアップし、市民が交流のキーパーソンとなるように努めていきたいです。



鈴木スポーツ庁長官（当時）（右）、クロアチア特命全権大使フラスティッチ氏（図外）、クロアチアスポーツ庁長官コステリッチ氏（左）の面談



林芳正文部科学大臣（当時）（右）、クロアチア特命全権大使フラスティッチ氏（左）、クロアチアスポーツ庁長官コステリッチ氏（中央左）の面談

前述のような国際交流を通じて、十日町市とクロアチアの新たなレガシー（遺産）を形成することによって、国際交流員としての証を残したいと思っています。十日町市で過ごした4年間の経験は、今後のキャリアプランと将来の夢への、大切な足掛かりになると確信しています。

プロフィール



Sven Bjelan

国際交流員4年目。クロアチア共和国ザグレブ市出身。ザグレブ大学の美術アカデミー卒業後、ザグレブ哲学大学にて日本学を学び、中央大学と大阪教育大学に留学のため来日。日本留学中に会った日本人女性と、2019年4月に結婚。2020年3月には長男が誕生。ビデオゲーム、旅行、ロック音楽が好き。国際交流の仕事を通じて柔道に出会い、市内の柔道団体に加盟。冬には、自然が豊かで降雪量も多い十日町市で、スノーボードを楽しんでいる。